

すくすく消費者

島根県 令和5年度 第40号
消費者教育情報紙

■トピックス (P1)

自立した消費者の育成に向けて
～新学習指導要領における
社会科・公民科の内容から～

■実践教育事例 (P2-P18)

- ・島根県小学校家庭科教育研究会
- ・島根県中学校技術・家庭科研究会
- ・島根県社会科教育研究会
- ・島根県特別支援学校教育研究会 島根県消費者教育推進連絡会

トピックス

自立した消費者の育成に向けて ～新学習指導要領における社会科・公民科の内容から～

島根県教育庁教育指導課
指導主事 坪倉 将

すでに実施されている新しい学習指導要領において、消費者教育と関連の深い高等学校の公民科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」を育成することとされています。小学校社会科や中学校社会科の目標についても、若干の文言の違いはあるものの目指す資質・能力については共通となっています。

その中で、各教科において取り扱う内容のうち、消費者教育に関するものも一層充実されました。校種別に主な内容を整理すると、以下ようになります。

<小学校社会科>

- ・販売の仕事が、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていること
- ・社会生活を営む上で大切な法やきまり

<中学校社会科（公民的分野）>

- ・契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解すること
- ・個人や企業の経済活動における役割と責任
- ・消費者の保護と、その意義を理解すること
- ・消費者の自立の支援なども含めた消費者行政

<高等学校公民科（公共）>

- ・多様な契約及び消費者の権利と責任

経済の仕組みの複雑化やグローバル化等の流れの中で、消費者トラブルは依然として多発し、その内容も年を追って多様化、高度化しています。さらに、民法の改正により令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられ、18歳から一人でも有効な契約をすることができるようになりました。児童・生徒には、消費生活に関わる基本的な知識を正しく身に付けることだけでなく、適切に情報を収集し、合理的に判断する思考力・判断力や、契約に関する責任の重要性への深い理解が、以前にも増して求められています。悪質な事業者等に「だまされない」消費者だけでなく、自立した消費者、健全な市民社会の形成に資する消費者を育成することが、これからの消費者教育に求められていると言えるでしょう。

そのために学校現場においては、社会科や公民科、家庭科の授業においてはもちろんのこと、「総合的な学習（探究）の時間」や特別活動等においても、児童・生徒の日常生活と関わらせながら、課題探究的な学びを教科等横断的に深めるとともに、専門性の高い関係諸機関や外部人材と緊密に連携して、消費者教育に関する取組を一層充実させていくことが期待されています。

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、 生活を工夫し創造する資質・能力の育成

～MyしまねECOプランの取り組みを通して～

島根県中学校技術・家庭科研究会

(実践校：出雲市立斐川東中学校、出雲市立浜山中学校)

1 はじめに

出雲市は、源流を中国山地にもつ斐伊川の流域に位置し、近くには宍道湖があり、四季折々に変化を見せる豊かな自然環境を有している。近年全国的に、夏は猛暑に見舞われ、各地でゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な大雨が降り、甚大な被害をもたらしている。その背景には地球温暖化があると言われている。

学習指導要領では持続可能な社会の構築の重要性が強く打ち出されている。これまで、家庭分野の学習においても各内容で環境と結び付けた学習を展開してきた。しかし、昨今2030年の「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に向けて、実践力の育成への期待がより高まっており、家庭分野全体の題材を通して、環境に配慮した家庭生活について学習することは極めて重要である。特に、内容C「消費生活・環境」では、さらに実践力を追求した学習の必要性を強く感じている。

今、当たり前と感じているこの豊かな自然環境や生活を守り、持続可能な社会の構築の実現のために、一人一人が課題意識をもち、行動していくことが大切である。今回の取組では、自分や家族の消費行動が、環境問題と関係していることを実感し、家庭生活の中から問題を見だし、問題解決に向け、主体的に行動していく生徒の育成を目指した問題解決的な学習を行った。

2 取組の実際

(1) 研究のねらい

学習前に実施した「消費生活に関する事前アンケート」と、理科の授業で実施した「環境学習の事前事後アンケート」の結果から、環境問題に対して興味関心や問題意識は高いが、その反面、自分自身の消費行動が環境に影響を与えているという意識は低く、自分の日々の消費行動を振り返り改善しようと意識している生徒は少ないことが分かった。また、島根県や出雲市が取り組んでいる環境に配慮するための活動を知っている生徒は27%と少なく、このことから、様々な社会問題と自身の消費行動とが結びついておらず、ほとんどの生徒が環境問題を自分のこととして捉えていないのではないかと考えた。

(2) めざす生徒の姿

- ・自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定することができる生徒。
- ・自分や家族の消費生活の中から見方・考え方をはたらかせて、問題解決的な学習に取り組み、資質・能力を伸ばすことができる生徒。
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、消費生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けている生徒。

表1 指導計画 題材名：よりよい消費者になろう
「MyしまねECOプラン」に取り組もう（第2学年全5時間）

時間	学習過程	小題材	ねらい・学習活動
1	生活の課題発見	消費者の権利と責任	○消費者の基本的な権利と責任について理解することができる。 ○自分や家族の消費生活を振り返って、問題を見だし、課題を設定することができる。 ・資料を見て、消費者としてどのような行動をとればよいのかについて考え、自分ができるところを具体的にまとめる。
2			○島根県の現状と取組、課題を知る。 ・ゲストティーチャーから話を聞く。
3	検討と計画	解決方法の検討	○自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫することができる。 ・「MyしまねECOプラン」の計画を工夫することができる。 ・グループで発表し合い、計画を見直す。
	活動	課題解決に向けた実践	※家庭で「MyしまねECOプラン」を実践する
4・5	実践活動の評価・改善	MyしまねECOプラン	○「MyしまねECOプラン」の実践を振り返り、まとめたり、発表したりすることができる。 ・実践したことを計画・実践記録表にまとめる ○「MyしまねECOプラン」の実践について、評価したり、改善したりすることができる。 ・グループの意見を踏まえ、実践を評価し、改善する。 ○自立した消費者としてさらに自分ができるところを考える。 ・よりよい消費者として大切なことをまとめる。

3 研究の仮説

- ・生活や社会への関心を高め、既存の知識を活用し、問題に気付かせれば、生活や社会への関心が高くなる。

なり、問題を見いだすことができるようになるだろう。

- ・問題解決的な学習過程を通して、自分のこととして捉えさせれば、具体的にどう実践すればよいのか気付くことができるだろう。

4 研究の方法・内容

(1) 指導計画の工夫

題材を5時間で計画し、その中で評価・改善の時間を2時間設定した。実践の評価や改善の時間を確保することで、改善点が明確になり、次の実践へつながると考えた。(表1)

(2) 課題発見のための工夫

①導入の工夫

環境問題に関心の高い生徒の実態から、最初に環境問題に関する写真を複数提示した。それぞれの環境問題の原因を考え、自分や家族のどのような消費行動が環境問題の原因につながっているのかをグループで話し合い、発表した。

②島根県消費者センターとの連携

島根県消費者センターよりゲストティーチャーを招き『MyしまねECOプラン』の計画にむけて、より具体的な実践計画が立てられるよう、エシカル消費や島根県の取組について話を聞く機会を設けた。(図1)

③学校図書の活用

自分たちの生活の中での問題に気付かせるため、環境問題やエシカル消費に関する図書を購入し、2年生の教室棟に配置し、生徒たちがいつでも閲覧できるようにした。情報収集の時間確保が難しい中で、環境問題の現状や、身近なエシカル消費に関わる取組についての関心を高めたいと考えた。

(3) 課題解決のための工夫

①ワークシート（OPPシート）の活用

授業の見通しをもたせるとともに、授業の振り返りやまとめをする1枚ポートフォリオ（OPPシート）を活用した。「自分の課題」や「題材を貫く課題」を記載するとともに、毎時間、授業の始めと終わりに「めあて」と「振り返り」を記入して、学習に取り組んだ。1年時に学習した食生活、2年時で学習した衣生活と住生活の学習でも同じ様式のもので活用した。『MyしまねECOプラン』の実践計画を考える際に、各内容のOPPシートも参考にした。

今回の取組を島根県のご当地キャラクター『しまねっこ』にかけ、『MyしまねECO（しまねっこプラン）』とした。ワークシートにしまねっこのイラストを入れ（島根県の観光協会に使用申請許可取得）、生徒たちが郷土に愛着をもつと同時に、生徒たちの郷土の環境保全への意欲を高めたいと考えた。

②KJ法の活用

『MyしまねECOプラン』の実践計画を各自で考え、計画をより具体的な実践計画にするために、KJ法を取り入れた。各自が計画した実践内容を付箋に1つずつ書き、それをグループに分け、具体化していった。(図2)

③ICTの活用

実践結果を評価・改善する際に、グループで共有し、取組を整理分析するためにパワーポイント資料を作成した。実践発表会では、その資料を活用してジグソー法を取り入れ発表し合った。



図1 島根県消費者センターとの連携の様子



図2 KJ法を使ったグループ活動の様子

5 成果と課題

導入での写真提示や島根県消費者センターの方の講話が『MyしまねECOプラン』のより具体的な実践計画へとつながった。環境問題の写真から原因や消費行動との関係について考えることで、環境問題が自分や家族の消費行動と関係していることに気づくことができた。また、KJ法を活用した話し合い活動を通して、実践計画を付箋に書いた段階では具体化できなかった生徒もより具体的な内容に工夫されていることがワークシートから見てとれた。実践1か月後のアンケートでは、75%の生徒が『MyしまねECOプラン』を継続していると答えた。また、『MyしまねECOプラン』実践後の生徒の感想には「自分のできる範囲で実践を続けたい」「電気をこまめに消すことが持続可能な社会の実現につながると分かったので、小さなことでも継続させていきたい」など今後も続けていきたいという記述が多く見られた。以上のことから、今回の取組では、問題解決的な学習過程を通して、生徒が環境問題を自分のこととして捉え、具体的にどう実践すればよいのか気付くことができたと考える。今後、これで終わりにするのではなく、これらの実践に生徒が継続して取り組み、家族、地域へと広げていきたいと考える。

持続可能なエネルギー確保のあり方から学ぶ よりよい消費者になるための行動を考える子どもの育成

～第5学年「これからの工業生産とわたしたち」の学習を通して～

島根県社会科教育研究会

指導者 松江市立島根小学校 大坂 慎也

1. はじめに

本校がある松江市島根町は、農業と漁業がさかんな地域であり、それらは児童にとって身近な存在として児童のくらしに根付いている。しかし工業生産については、それが自らのくらしに位置付いていることや、くらしに重要な役割を果たしていることをイメージできていない児童は決して多くないと考えられる。

そこで本単元では、我が国の工業生産についてその概要やそれにかかわる人々の工夫や努力、貿易や運輸についての学習の問題を追究・解決する活動を通して、自分たちのくらしのいたるところに工業生産が位置付いていること、工業生産はわたしたちのくらしを支える大切なものであることに気付くことができるようにする。その際、日本の工業生産に欠かせないエネルギー確保の観点から、日本のエネルギー確保の現状にふれ、持続可能な日本の工業生産のあり方を考えるとともに、消費者として自らのくらしを考えることができるようにする。

本学習では、中国電力の方をゲストティーチャーに招き、さまざまなエネルギー発電の仕組みや日本のエネルギー確保の現状等について話をしてもらいながら、これらの発電によって得られた電気を消費者としてどのように扱っていけばよいのかを考えることができるようにしたいと考えた。

2. 単元名 「これからの工業生産とわたしたち」

3. 単元の目標

我が国の工業生産について、交通網の広がりや外国とのかかわり、エネルギー開発などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで、貿易や運輸の様子をとらえ、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は原材料の確保やエネルギー発電などにおいて、我が国の工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、消費者として主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

4. 単元構成

つかむ	第1時	我が国の運輸や貿易について話し合い、学習問題をつくる
調べる	第2時	工場で作られた製品がどのように運ばれているのかを調べる
	第3時	日本の輸入の特色について調べる
	第4時	日本の輸出の特色について調べる
まとめる	第5時	これからの日本の運輸や貿易のあり方について考える
いかす	第6・7時	持続可能なエネルギー確保のあり方について考える

5. 授業の実際

〔前時までのふりかえり〕

- ・日本のこれから工業生産をもっと発展させるには、エネルギーが絶対に必要だと思うから、外国と仲良くして、ちゃんと輸入ができるようにしないといけないと思った。
- ・これからの日本は輸入ばかりにたよるのではなく、とくにエネルギーについては原料となるものが外国同士戦争などによって輸入されてこなくなることもあるので、日本で太陽光発電などをもっと広めていかないといけないと思う。

本授業では、中国電力の方をゲストティーチャーに招き、原子力発電や火力発電に加え、再生可能エネルギーである風力発電や太陽光発電によるエネルギー発電についてお話をうかがったり実験装置による発電の様子を観察したりすることを通して、エネルギー発電の仕組みをより詳しく知るとともにエネルギー発電を身近なものにとらえ、エネルギーの大切さや環境について考えることができるようにした。



○さまざまなエネルギー発電の存在

いろいろな発電方法があるし、それぞれ違っていておもしろいね！



エネルギー発電には、原子力や火力、太陽光、水力、風力など様々な方法があり、とくに中国地方には水力発電所が多く存在することに子どもたちは驚いていた。それぞれの発電方法については、手回し発電機をはじめ様々な実験装置を用いて、どのようにエネルギーが生み出されるのかを体験を通して学ぶことができた。

○エネルギーを安定供給するためのエネルギーミックス

いろいろな発電方法を組み合わせることで、自分たちのくらしが守られているんだね！

子どもたちが予想した日本のエネルギー発電の比率は原子力や水力が高かったが、現実には火力による発電が約80%を占めていることに子どもたちは驚いていた。ひとつの発電方法に頼るのではなく、複数の発電によって自分たちのくらしが成り立っていることに気付くことができた。

○発電によって得られたエネルギー（電気）を大切に使うためにできることは？

みんなで省エネに取り組む！

自分たちのくらしを成り立たせているエネルギー（電気）を大切に使うために自分にできることを考えた。子どもたちは、「使っていない部屋の電気は消す」「冷蔵庫にものを詰め込みすぎない」「テレビをつけっぱなしにしない」など、自らのこれまでのくらしをふりかえりながら考えていた。

〔子どものふりかえり〕

- ・それぞれの発電方法には、長所と短所があることや、どれくらい発電できるのかが分かりました。電気をつくるだけでもたくさんの原料が必要で、大変だと知りました。
- ・日本の発電電力量の80%が火力発電だと知ってびっくりしました。私たちが生活するには安定供給、経済、環境を考えたエネルギーミックスが大切だということが分かりました。エネルギーは自分たちにとって身近で当たり前のものだとなかったので、これからは家でも節電したり、勉強したことを親に教えたりして、家族でエネルギーのことをこれからも考えたいです。

自立した消費者の育成を目指す社会科学習

～安全な消費生活の追求を通して～

島根県社会科学教育研究会

指導者 島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 中尾 文

1. はじめに

2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられました。これにより18歳になると携帯電話を契約する、クレジットカードをつくる、ローンを組むなど、親の同意なしに様々な契約ができるようになります。中学3年生にとっては、近い将来の消費生活においてできることが大幅に増えたこととなります。一方で、自分の行動に自分で責任を負わねばならない範囲も広がりました。消費生活における判断力を育む上で学校や社会科学教育が果たす役割もますます大きくなっていくと考えます。

中学校の消費者教育では、社会科や家庭科など様々な領域で体系的に実践を行い、自立した消費者として生きていく力を育てていくことが大切です。そこで、本校9年生の社会科では「消費者の自立」をテーマに多様化・複雑化する消費社会を多面的・多角的に考察し、「どうすれば安全な消費生活が送れるのか」に迫ることを目指しました。

2. 単元のねらい

- ・身近な消費生活を中心に、契約のルールや被害回復の制度など、主権者として必要な知識を身に付ける。(知識・理解)
- ・商品の必要性、支払い方法、計画的な貯蓄などに着目して、暮らしとお金のバランスについて多面的・多角的に考察し、表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・消費者主権の実現を視野に、どうすれば安全な消費生活が送れるのかについて、課題や解決策を主体的に追究しようとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 指導について

- ・単元指導計画（5時間）

時	学習内容	学 習 目 標
1	3年後は18歳！～『成年』として消費生活を送る』とは、どういうこと？～	・契約とは何か、成年になることで3年後の私たちの消費生活がどう変わるのかを理解する。 ・単元の学習課題「安全な消費生活を送るために大切なことは何か」を把握し、これまでの経験をもとに自分なりの考えを表現する。
2	家計をシミュレーションしよう！～暮らしとお金のバランス、どうやってとる？～（写真1参照）	・収入を住居・食費・教育費等に振り分け、何かにお金をかけたら、何かはあきらめなければならないことを理解する ・収入や時間など限られた条件下で商品を手に入れるために、必要性をよく考える、買える価格のものを探す、支払い方法を変える、貯蓄を増やすなど、様々な選択肢を考える。
3	かしこい消費者になろう！～より良い商品、支払い方法を選ぶには？～（写真2参照）	・食品表示や新聞の折り込み広告の情報の読み取り・比較を通して、商品を選択する際にどのようなことに注意しなければならないかを考える。 ・様々な支払い方法の長所と短所を理解する。
4	消費者トラブルに要注意！～消費者の権利を守るには？～	・社会経験の浅い若者が狙われやすい悪質商法など、様々な消費者問題の内容を知り、その対策として消費者にできることを考える。 ・消費者問題への対応として、消費者の権利を守るための制度や法律、相談機関があることを理解する。
5	目指せ、安心・安全な消費生活！～自立した消費者になるには？～（写真3参照）	・これまでの学習を振り返り、安全な消費生活を送るためにどのようなことに注意し、何を大切にしなければならないかを話し合い、発表する。

4. 生徒の様子（「学習の振り返り」より）

2時間目

- ・生活するには色々なことにお金がかかるということがわかった。限られた収入の中でやりくりをしていくためには計画性が大切だと思った。
- ・毎月何にどれくらいのお金がかかるのかわかっていないとあっという間に月の給料を使ってしまうと思った。

3時間目

- ・広告は買いたくなるような書き方をしているけど、値段や効果、品質が本当に正しいかどうかを調べることや他の情報と比べることが大切だと思った。
- ・ネットショッピングのように実物を見ないで買う時には、販売者の情報や不良品だった場合の対応を事前によく確認しておかなければならないと思った。

4時間目

- ・ローンやクレジット決済は便利だなと思う面もある。でも、自分が支払えるかどうかをわかっていなければ、結局は追い込まれてしまう。
- ・クレジットカードを使うよりもきちんと貯めてから買い物しようと思った。



写真1 松江市が配布する資料の活用



写真2 商品選びの注意点を考える

5. まとめ

「買い物をめぐる失敗」があるかを尋ねたところ、ほとんどの生徒が苦い経験があると答えました。今回の学習はその経験を発表し合うところからスタートしました。それぞれの失敗の原因を考えていくと、確認ミス、知識不足、計画性の欠如などが見えてきて「安全な消費生活」を追求するために必要な視点を明らかにすることができました。何より、失敗経験を含めた様々な情報を共有することの重要性を理解することにつながったと思います。

今、社会の変化や法制度の改正により生徒たちを取りまく消費生活は大きく変わろうとしています。従来の経済の学習に加え「消費経験の浅い若者」に焦点を当てた単元を構成したり、学習課題を設定したりすることが必要であると感じています。

消費者教育のための資料は国や地方公共団体が無償で配信・配布しているものも数多くあります。チラシやショッピングサイトなど、身近な素材を教材として活用することも十分に可能です。こうした情報も共有しながら、他の分野や教科と連携し、実践を広げていけたらと考えています。



写真3 意見を交換する

地域の課題から考える経済・消費活動 未利用資源アカエイを利用した地域振興策・消費活動 ～アカエイの活用 農産加工サービス班の取り組みを通して～

島根県特別支援学校教育研究会
島根県消費者教育推進連絡会
指導者 島根県立松江養護学校
高等部職業コース 川上 智子

1. はじめに

本校の高等部職業コースは生徒83名（1年～3年）で、一般就労を目指す生徒が通学している。特に作業学習では一般就労に必要な能力・態度を育むことを目標に、サービス系の作業活動を中心に、食堂（みのり亭）、流通（みのりマート）、服飾雑貨（recolte*n）、清掃（みのり Clean Service 洗車、清掃）、農産加工（みのりファーム、Vege・Real）の各サービス班がそれぞれ店舗営業を行い、地域密着型の特色ある学習を展開している。

今年度より「地域」との連携を学校全体として生徒の学習活動に位置づけており、日々の作業学習でも「地域」との連携を意識した取り組みを行っている。高等部卒業後はほとんどが就職する生徒たちにとって、地域での生活を想定しながら、食を通して生産から消費・廃棄までの一連の流れを考えることにより、自立的で主体的な経済・消費活動を実践できる機会にしたいと考え、本実践を行うこととした。

2. 取り組みの実際（生徒の実践）

本職業コースでは、年間35日程度の営業日（火・木）を設け、生徒主体のショップ経営を行っている。本ショップは、唐揚げ、肉じゃが、サラダなどの総菜類、お好み焼き、焼きそばなどの鉄板料理、チーズケーキ、プリンなどのスイーツ、各種パン類を販売している。長年のレシピ等を参考に生徒が作りたいメニューを考え、販売する商品を決定している。今年度は「地域」との連携をテーマに、地域の課題として取り組まれている「アカエイ」を使ったメニュー開発を行うことを題材とし、実践に取り組んだ。

（1）単元名 「アカエイバーガーの開発」

（2）単元のねらい

○穴道湖・中海でアカエイが繁殖しているという現状や課題を知る。【知識及び技能】

○地域の課題について知り、アカエイの有効活用について工夫したり考えたりする。【思考力・判断力・表現力等】

○地域の課題や自らの消費活動について関心を持ち、よりよい消費生活に向けて判断したり選択したりできるようにする。【学びに向かう力・人間性等】

（3）学習内容

	学習内容	主な学習活動
1	Vege・Real の経営について	○どんなショップを目指すのか考える
2	地域の課題「アカエイの有効の活用」について知ろう	○島根大学協力研究員さんの話を聞く ・穴道湖・中海で繁殖しているアカエイの現状について ・アカエイの有効活用について ・アカエイの栄養について ・アカエイバーガー販売の取り組みについて

2	地域の課題「アカエイの有効の活用」について知ろう	○アカエイについて知る ・ぬめり取り体験 ・皮はぎ体験 ○鮮魚店見学 ・アカエイの流通について知る	
3	バーガーの具材や調味料を考えよう ～試作・振り返り～	○アカエイバーガー試作・試食・評価 ・臭み取りの工夫 ・調理方法 ・具材について ・調味料	
4	Vege・Real での販売	○アカエイバーガー、軟骨からあげの販売 ・お客様アンケート	
5	地域のイベント参加 ～ごぶん市場で販売～	○アカエイバーガー、軟骨からあげの販売 ・お客様アンケート	
6	しまね探究フェスタ2022参加	○探究フェスタでの発表に向けて ・取り組みのまとめ ・発表練習 ・取り組みの発表	
7	さらなるメニュー開発に向けて	○新メニューを開発する	

(4) 生徒の様子と感想（＊ねらいにかかわるものを抜粋）

①島根大学協力研究員さんの話を聞く

- ・アカエイがそんなに増えているとは知らなかった。
- ・アカエイはとても大きいけど、可食部が少なく廃棄部が多いことを初めて知った。
- ・ぬめりを取るのと皮を剥がすのがすごく大変だった。
- ・おいしくて地域の人に喜んでいただけるバーガーを作りたい。



②ぬめり取り・皮はぎ体験



③試作・試食



④振り返り

- ・一番おいしい組み合わせ（フライ、キャベツ、マヨネーズ、ソース）で販売し、おいしいと言ってもらえて嬉しかった。
- ・他のメニュー（煮付けや竜田揚げバーガー）や、フライだけの販売をすると良い。
- ・来年度も引き継いでいきたい。
- ・今は限られた人だけなので、もっと幅広く買ってもらえるようにしたい。



3. まとめ

今回の学習活動を通して、生徒たちは地域の現状や課題を知ることができ、アカエイバーガーを開発することで、地域の課題を少しでも改善させることのきっかけ作りに携わることができた。メディアでの放送や探究フェスタでの発表をしたり、地域のイベントで販売したりすることを通して、お客様から感想をいただき、今後も引き継ぎ、さらなる商品開発や販売の幅を広げたいという意欲をもつことができた。自分たちの取り組みが社会貢献につながっていることも感じている。アカエイバーガーの販売はまだ始まったばかり。今後も地域の課題を解決していきながら、お客様においしいと思っていただける商品を開発し、社会の一員としてよりよい消費行動がとれる一助としたい。

地域の課題から考える経済・消費活動

～いのしし肉の活用 食堂サービス班（みのり亭）の取り組みを通して～

島根県特別支援学校教育研究会

島根県消費者教育推進連絡会

指導者 島根県立松江養護学校

高等部職業コース 古瀬 知美

1. はじめに

本校の高等部職業コースは生徒83名（1年～3年）で、一般就労を目指す生徒が通学している。特に作業学習では一般就労に必要な能力・態度を育むことを目標に、サービス系の作業活動を中心に、食堂（みのり亭）、流通（コンビニ）、服飾雑貨（レコルテ）、清掃（洗車、清掃）、農産加工（農産、加工）の各サービス班がそれぞれ店舗営業を行い、地域密着型の特色ある学習を展開している。

今年度より「地域」との連携を学校全体として生徒の学習活動に位置づけており、日々の作業学習でも「地域」との連携を意識した取り組みを行っている。高校卒業後はほとんどが就職する生徒たちにとって、地域での生活を想定しながら、食を通して生産から消費・廃棄までの一連の流れを考えることにより、自立的で主体的な経済・消費活動を実践できる機会にしたいと考え、本実践を行うこととした。

2. 取り組みの実際（生徒の実践）

本職業コースでは、年間35日程度の営業日（火・木）を設け、生徒主体の食堂経営を行っている。長年のレシピ等を参考に生徒が献立を決定しているが、今年度は「地域」との連携をテーマに、地域の課題として取り組まれている「いのしし肉」を使ったメニュー開発を行うことを題材とし、実践に取り組んだ。

（1）単元名 「いのしし肉を使ったメニュー開発をしよう」

（2）単元のねらい

○いのしし捕獲から、いのしし肉の生産・流通・消費の流れを知る。【知識及び技能】

○地域の課題（有害鳥獣駆除対策）について知り、いのしし肉の活用について工夫したり考えたりする。【思考力・判断力・表現力等】

○地域の課題や自らの消費活動について関心を持ち、よりよい消費生活に向けて判断したり選択したりできるようにする。【学びに向かう力・人間性等】

（3）学習内容

	学習内容	主な学習活動
1	どんな食堂を目指すのか確認しよう	○どんな食堂を目指すのか考える
2	地域の課題「いのしし肉の活用」について知ろう	○合同会社壱百円さんの話を聞く ・いのししの捕獲の現状について ・いのしし肉の活用について ・いのしし肉の栄養について ・安分亭さんの取り組みについて
3	メニューを考えよう	○栄養教諭さんから「味の基本と献立作成」について学ぶ ○旬の食材について調べる ○野菜の栽培・収穫について知る（農産班の見学） ○器製作について知る（高等部総合コース窯陶班の見学） ○メニューのアイデアを考える
4	試作・振り返り	○試作をする ○価格を考える

5	食堂での営業・振り返り	○食堂営業をする ○お客様アンケートを実施し、振り返りをする
6	さらなるメニュー開発に向けて	○新メニューを開発する ・安分亭さんとの料理講習会



(4) 生徒の様子と感想（＊ねらいにかかわるものを抜粋）

①合同会社式百円さんのお話・いのしし肉学習

- ・いのしし肉を使った料理をするきっかけ、取り組みが分かるような展示を食堂にしたい。
- ・レバーや内臓も食べられる。骨もつかえる。
- ・松江市で1年間にいのししが1000頭捕獲されて900頭は捨てられている現実を知った。
- ・かたい肉を柔らかくするにはパイナップルや発酵食品を使うと柔らかくなる。
- ・いのししは豚と牛のいいとこどり。歯ごたえ（うまみ）を生かしたい。
- ・ジビエはしっかりと火を通さないといけない。



②農産班見学



③食堂での営業・試作



④振り返り

- ・いのしし肉は値段が高いが、栄養価が高いし、捕獲したりするのに手間もかかるので、それを考えてメニューや売り方を考えていくといい。
- ・地域の人の事を考えて、食堂運営しないといけないと思った。
- ・ものを買うのにもいろいろな事を考えることが大切だ。
- ・野菜を作るのは大変で、愛情を持って大切に育てていることに気付いた。



3. まとめ

作業学習は生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に向けて必要な事柄を学ぶ、まさに実生活と直結した総合的な学びである。また、週2日繰り返行われるという学習の特性から、就労に向けての作業能力やコミュニケーション能力が身に付いていくことはもちろんであるが、生徒自身が生活する上での考え方や行動、意欲にも大きく影響する。

今回の学習活動を通して、生徒たちは生産者の立場や食品を提供する立場など様々な角度から物事を捉えることで、それぞれの立場の考え方で社会に与える影響が大きく違っていくに気付くことができた。また、自分たちの作業学習での取り組みが社会とどのようにつながっていくのかを認識することができた。生徒の感想や日頃の言動からも感じる事ができた。まず身近なところから生活に関心を持ち、自分の行動を意識的に考えることで、今後生徒たちが、社会の一員としてよりよい消費行動がとれる一助としたい。

持続可能な社会の担い手の育成

～ 1 食分の献立作成を通して～

島根県小学校家庭科教育研究会

指導者 浜田市立石見小学校 松本 侑樹

1. はじめに

本題材では、「持続可能な社会の構築」の見方・考え方を働かせるとともに、既習を生かしながら、1食分の献立を考えていく。さらに環境に配慮した食材の選び方や調理の仕方について、調理実習の食材購入を通して身に付けていく。1食分の食事を作るために、これまでの自身の学習・生活経験を振り返り、栄養バランスや彩り、季節感、好みなどの観点を学び、工夫して献立を考え、実践する。SDGsの実現が求められる昨今、より幅広い観点から献立を考え、環境に配慮した食材選択を学ぶことができる本題材は、持続可能な社会の担い手を育成することができる有意義な題材であると考えられる。

2. 取組の実際

(1) 題材名 第6学年 まかせてね今日の食事

(2) 学習の流れ

①献立の立て方を考えよう

献立を立てる際の観点を理解する。

②1食分の献立を立てて、調理しよう

献立の立て方を理解する。

地産地消や環境に配慮した買い物や調理について理解する。

食材購入計画を立て、スーパーマーケットの下見をする。

食材購入計画の再検討をする。(本時)

買い物に行き、調理をする。

③楽しく食事をするために計画を立てよう。

各家庭での実践計画を立てる。

(3) 授業の実際

本時は、スーパーマーケットの下見を基に、「人と地球にやさしい食材購入計画を考えよう」という課題で、話し合いを行った。

まず、下見を振り返り、環境に配慮している工夫を確認した。次に、下見の時に記録した値段や写真を基に食材の購入計画を再検討した。そして、①購入食材②変更食材③追加食材についてグループごとに発表し、変更理由を共有した。最後に、再検討を通して、気付いたことや考えたことをワークシートに書き、発表した。

グループでの話し合いでは、「栄養バランス」「味」「彩り」「旬」「地産地消」「環境への配慮」などの視点を基に、購入計画を検討した。また、予算についても話し合い、量や材料の変更をしたグループもあった。食品ロスのことを意識し、グループ間で食材の共同購入を考えた班もあった。

3. 成果と課題

○成果

(1) 進んで対話しながら活動できるような工夫

1食分の献立を考える際に、グループで話し合ってどのような食材を使うのかを決める活動をした。しかし、エシカルのことを考えると、なかなか具体的な話し合いができないと考えたので、近くのスーパーマーケットに下見に行った。下見に行く前に、どの食材を買うのかを決めていたが、実際に



行ってみると、環境に関する表示マークや食材の産地、量など自分たちの考えていた通りにならないことが多くあることに気づいていた。そのため、下見の中でどの食材を使うのかなどグループで活発な意見交換がなされた。

(2) 既習事項や学習内容が一目で分かるような掲示物の工夫

題材を通して、学習してきたこと（人と地球にやさしい献立のポイント、旬の食材、エシカル消費についてなど）を掲示したことにより、既習事項が一目で分かるようにした。本時でも、食材の再検討をする際に、旬の食材やエシカルについて掲示物を見て再確認している子が何人もいた。

(3) 家庭との連携

学習したことを活かす場として、家族が喜ぶ1食分の献立を家で作る活動をした。栄養バランスや環境のことを考えるなど学習を活かして、1食分の献立を考え、実際に買い物・調理・片付けを可能な範囲で行った。買い物・調理・片付けを行う際にエシカルについて考えている児童が何人もおり、学習を通して、環境について考えられる児童が増えたと感じた。

△課題

予算を1000円と設定していたが、1000円よりも安い値段で購入できるのに、食材を付け足したり、量を増やしたりして1000円丁度になるようにしていた班もあった。環境のことを考えると、食べきれる量を購入しなければいけないが、予算にとらわれすぎる面があり、予算設定や買い物の視点を意識づける声かけ等の大切さを改めて感じた。

本時では、下見を行ったことを生かして再検討をするという学習を行った。下見の際に、子どもたち同士で話し合いがなされ、購入食材がほぼ決まっていたり、購入したい食材が1種類しかなく、選択の余地が無い場合があったりして再検討での変更がない班もあった。しかし、「他の班と一緒に購入し、量を調節した」という児童の発表を取り上げて、エシカルの視点とのつながりに気づかせるなど子どもの声を生かした授業展開の工夫をしていく必要がある。



第6学年2組家庭科学習指導案

令和4年10月4日 2校時

場 所 イングリッシュルーム

授業者 松本 侑樹

1. 題材名 「まかせてね 今日の食事」

(第6学年) 内容B「衣食住の生活」(3) 栄養を考えた食事ア(イ)(ウ)イ

内容C「消費生活・環境」(2) 環境に配慮した生活アイ

2. 題材の目標

- (1) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解し、献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。また、自分の生活と環境との関わりや環境に配慮した献立の立て方や調理の仕方について理解する。
- (2) 1食分の献立の栄養バランスや、環境に配慮した生活について買い物や調理の仕方などに問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、栄養を考えた食事や環境に配慮した買い物や調理方法について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解している。 ・献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解し、栄養バランスや環境との関わりを考え献立を立てている。 ・自分の生活と環境との関わりや環境に配慮した献立の立て方や調理の仕方について理解している。	・1食分の献立の栄養のバランスや環境に配慮した生活について買い物や調理の仕方などに問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族の一員として、生活をよりよくしようと、栄養を考えた食事や環境に配慮した買い物や調理について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

4. 指導と評価の計画 (全10時間 本時6/10)

(1) 献立の立て方を考えよう 1時間

(2) 1食分の献立を立てて、調理しよう 8時間

ゴール：人と地球にやさしい献立メニューを考えよう

(3) 楽しく食事をするために計画を立てよう 1時間

小題材	時間	ねらい・学習活動	評価基準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
献立の立て方を考えよう	1	○献立を立てるときには、栄養のバランスを整えて、主食・主菜・副菜に汁物を加えて食品を組み合わせることを理解するとともに、給食の献立づくりの観点を加え、献立を考えるうえでの問題を見出し「人と地球にやさしい献立メニューを考えよう」の課題を設定することができる。 ・栄養教諭（GT）の話を聞き、栄養バランス、味、彩り、旬、地産地消、環境の観点から1食の献立を考えることへの理解を深める。 ・題材のゴールを知る。 ・授業をふり返り、考えたことを書く。	①献立を構成する要素が分かる。 ②食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解している。 （ワークシート）	①1食分の献立の栄養のバランスや、環境に配慮した生活について問題を見出して課題を設定している。 （ワークシート）	
	2	○栄養のバランス、味、彩り、旬の各観点を満たす献立の選定を話し合い、献立の立て方に対する理解を深めることができる。 ・本題材で献立を考える際の観点を確認する。 ・料理カードを用いながら、おかずや汁物を組み合わせて献立を考える。 ・授業をふり返り、考えたことを書く。	③栄養のバランス、味、彩り、旬の各観点を満たす献立の選定を話し合い、献立の立て方を理解している。 （ワークシート）		①栄養を考えた食事や環境に配慮した買い物や調理について課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 （ワークシート） （行動観察）
一食分の献立を立てて、調理しよう	3	○地産地消や環境に配慮した買い物や調理、調理後の片付けについて理解を深めることができる。 ・環境に配慮した買い物や調理、調理後の片付けについてどのようなことができるのかを発表する。 ・自分たちで考えた献立を作る際に、どのような環境に配慮した取り組みができるのかを考える。 ・授業をふり返り、考えたことを書く。	④地産地消や環境に配慮した買い物や調理、調理後の片付けについて理解している。 （ワークシート）		
	4	○主菜の調理計画について環境に配慮して、工夫することができる。 ・材料や手順などを調べ、献立の調理計画を立てる。 ・環境に配慮した調理の計画が立てられるように話し合う。 ・授業をふり返り、考えたことを書く。		②主菜の調理計画や調理の仕方について考え、工夫している。 （ワークシート）	②栄養を考えた食事や環境に配慮した買い物や調理について課題に解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 （ワークシート） （行動観察）
	5	○主菜を作るときに、どのように買い物をしたらよいのか、値段はいくらになるかなどを考えながら食材購入計画を立てることができる。 ・環境に配慮した買い物をするためにどの食材を購入するかを考える。 ・下見を振り返り、変更点などをメモする。		③環境や予算に配慮しながら食材の選び方について考え、工夫している。 （ワークシート）	
	6 本時	○前時の下見をもとに、食材購入計画をグループで再検討することを通して、環境に配慮した買い物の仕方に対する考えを捉え直すことができる。 ・購入食材、変更食材、追加食材についてグループで話し合い、それぞれの理由を考える。 ・授業をふり返り、考えたことを書く。		④食材購入計画を再検討し、環境に配慮した買い物の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	

小 題 材	時 間	ねらい・学習活動	評価基準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一食分の献立を立てて、調理しよう	7	○前時の食材購入計画をもとに、買い物に行く。 ・もう一度環境に配慮した買い物の仕方について確認し、環境や品質を考えた適切な買い物ができるようにする。 ・買い物を振り返り、考えたことを書く。	⑤購入するために必要な情報の収集・整理ができ、買い物の仕方について理解しているとともに、適切にできる。		③環境に配慮した主菜の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 (ワークシート) (行動観察) ④目的に応じた献立を作るために、調理計画や調理の仕方及び材料の選び方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かり表現している。 (ワークシート)
	8・9	○環境に配慮した調理の仕方や配膳の仕方について理解し、調理計画にそって適切に調理することができる。 ・計画にもとづいて、グループで協力しながら、自分たちで考えた主菜の調理を行う。 ・配膳し、試食をして、おいしく作るためにわかったことを書く。 ・学習の振り返りを書く。	⑥環境に配慮した調理の仕方などについて理解しているとともに、適切にできる。		
楽しく食事をするために計画を立てよう	10	○学習内容をまとめ、各家庭で実践する計画を立てる。 ・より楽しく食事をするために、工夫できることを考える。 ・本題材で学習した内容を生かして、家族が喜ぶ食事作りの計画を立てる。 ・楽しい健康的な食事をするための工夫について考えられたか、振り返る。		⑤目的に応じた献立を作るために、実践した結果を評価・改善し、新たに調理計画を立てる。 (ワークシート)	

5. 構想

(1) 題材観

本題材は学習指導要領家庭編「B 衣食住の生活」の「(3) 栄養を考えた食事」のア(イ)(ウ)イの内容に、「C 消費生活・環境」の「(2) 環境に配慮した生活」のアイを関連付けて題材を構成している。

本題材は、小学校家庭科における食生活に関わる学習のまとめとなる題材である。様々な食品を組み合わせ、栄養バランスのとれた1食分の献立を考え調理実習を行うことで、日常の食事への関心を高め、食事の役割を知り、その大切さに気づくとともに、献立を考えたり、調理計画を立てたり調理をする際に環境に配慮した視点で取り組むことで、環境に配慮した生活を工夫することができるようにすることをねらいとしている。また、本題材の中で考えた献立を家庭で実践することで、栄養や調理に関する学習としてだけでなく、家族との触れ合いとしての食事の大切さを知り、家庭生活をよりよくしていかうとする実践的な態度を育てるものである。

またこの題材では、「持続可能な社会の構築」の見方・考え方を働かせるとともに、既習を生かしながら、1食分の献立を考えていく。さらに環境に配慮した食材の選び方や調理の仕方について、調理実習の食材購入を通して身に付けていく。1食分の食事を作るために、これまでの自身の学習・生活経験を振り返り、栄養バランスや彩り、季節感、好みなどの観点を学び、工夫して献立を考え、実践する。SDGsの実現が求められる昨今。より幅広い観点から献立を考え、環境に配慮した食材選択を学ぶことができる本題材は、持続可能な社会の担い手を育成することができる有意義な題材であると考えられる。

(2) 兒童觀



